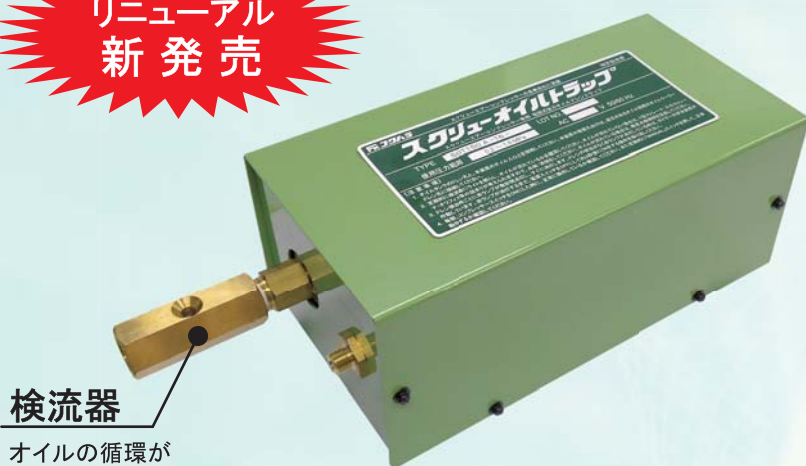


# スクリューオイルトラップ

スクリューコンプレッサー専用 オイルタンク内ドレン自動排水器

オイルの大敵はドレン（水）です。  
運転中でもドレンの排出ができます。

リニューアル  
新発売



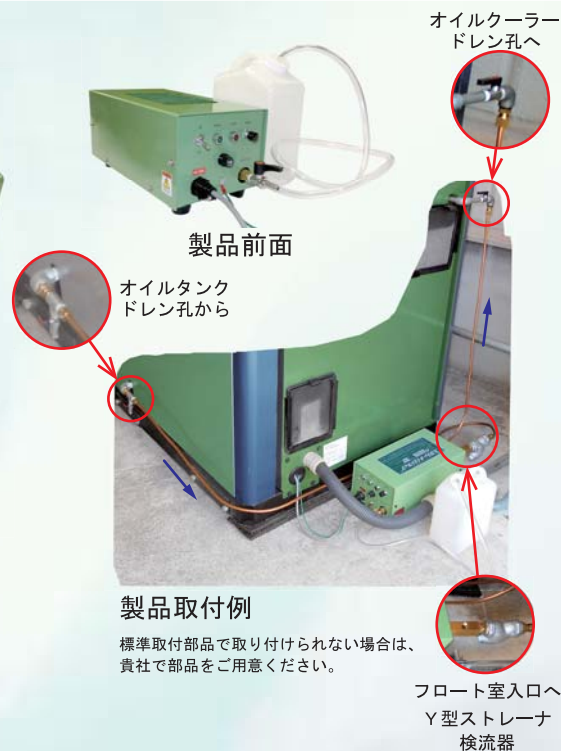
検流器

オイルの循環が  
確認できます。

SOT150A-16型

最高使用圧力 1.6MPa  
適用コンプレッサー 150kW以下

1980年9月発売 納入実績10,000台以上



製品取付例

標準取付部品で取り付けられない場合は、  
貴社で部品をご用意ください。

## 製品の特長

1. **コンプレッサー運転中でもドレン抜きが自動的にできます。**  
手動テストスイッチで、ドレンの手動排出ができます。
2. **安全装置と故障の報知**  
ドレン排出ごとに赤ランプが点灯します。万が一故障が発生した場合は、赤ランプが点灯したままになり、故障をすばやく知らせます。同時に安全装置が働き、誤ってオイルを排出してしまうことはありません。
3. **検流器を標準装備**  
検流器を標準装備していますので、オイルが循環していることを確認できます。よって、ストレーナ・オリフィスの詰まりが確認できます。
4. **標準取付部品付属**  
現在使用中のエアークンプレッサーへ簡単に取り付けることができます。

大手コンプレッサーメーカーの取扱説明書によると、

- ドレンが溜まったまま長期間運転することは、圧縮機本体のローター・軸受の故障や機器内部の発錆など、大きなトラブルの原因になります。
- 起動前にドレンを抜いてください。
- 高圧仕様は、低圧仕様よりドレンがより多く発生します。よってオイル浄化装置が必要です。

## 製品仕様

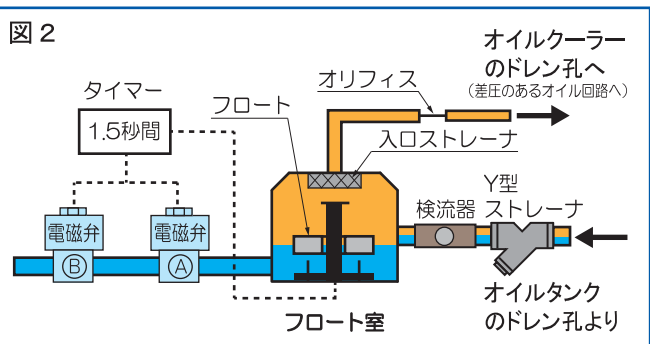
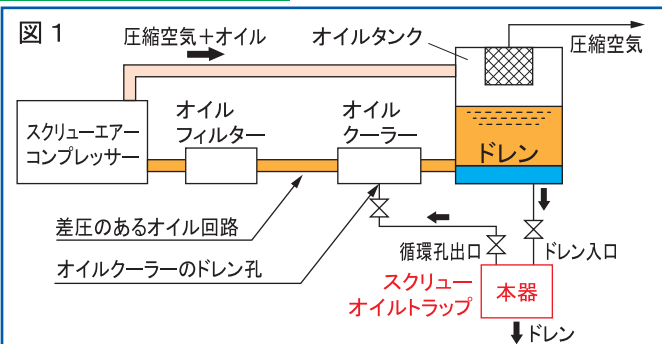
オイルの大敵はドレン(水)です。運転中でもドレンの排出ができます。

型 式 (旧型式)	SOT150A-16-1 (SOT-1G)	SOT150A-16-2 (SOT-2G)
電源・電圧・周波数・定格電流	AC100V 50/60Hz ・ 約0.5A	単相AC200V 50/60Hz ・ 約0.25A
適用コンプレッサー・使用圧力範囲	150kW以下 ・ 0.2~1.6MPa	
ドレン排出方式	センサー(フロート)による自動排出、手動スイッチによる手動排出	
ドレン排出量・内容積	0.7MPa時:約70cc/1.5秒 1.6MPa時:約105cc/1.5秒 ・ フロート室内内容積 約120cc	
異常警報	多量のドレンでフロートスイッチが1.5秒間以上動作する時、赤色の警報ランプが点灯	
検流器	標準装備、潤滑油の循環を目視で確認できます。確認用ライト付。	
使用周囲温度・オイル温度範囲	0℃~40℃(但し、ドレン水が凍結しないこと) ・ 2℃~95℃	
使用流体	コンプレッサーメーカー様が指定したコンプレッサーオイル、ドレン	
循環油入口・出口・ドレン排出口径	R1/2(オス) ・ G1/4 × φ6 ・ φ8ボールバルブ	
寸法・質量・塗装	377(W) × 154(D) × 141(H) ・ 約6.5kg ・ 若草色(マンセル7.5GY6/7)	

### 標準付属品

オイルタンクドレン孔側 (本体オイル入口側)	R1/2 × Rc3/8プッシング、R3/8 × Rc1/4プッシング、R1/4短ニップル、Rc1/4チーズ、R1/4 × Rc1/4ボールバルブ(手動ドレン抜き用・プラグ付)、R1/4 × φ8ハーフユニオン × 2個、φ8 × 1m銅管、φ8リング × 2個、φ8鋼管袋ナット2個、R1/2 × Rc1/4プッシング、Rc1/2 Y型ストレーナ、R1/2短ニップル、R1/4 × Rc1/4エルボ(90度向きを変える場合に使用)
循環側 (本体オイル出口側)	φ6 × 3.3m銅管、φ6リング × 2個、φ6鋼管袋ナット × 2個、R1/4 × φ6ハーフユニオン、R1/4 × Rc1/4ボールバルブ、R3/8 × Rc1/4プッシング、R1/2 × Rc3/8プッシング、Rc1/4 × R1/4エルボ(90度向きを変える場合に使用)
ドレン排出口	φ10 × 1mドレン排出ホース、ドレンタンク2L

### フロー図・取付例図



#### (1) 本装置の配管・据付・油量の確認

- ① 本装置への入口は、オイルタンクのドレン孔に接続してください。出口は差圧のあるオイル回路、たとえばオイルクーラーのドレン孔に接続してください。
- ② 本装置はコンプレッサーより2m以内、および同じ床面に設置してください。
- ③ 本装置設置後、約120ccのオイルを追加補充してください。
- ④ オイル補充後は、適正量が必ず確認してください。
- ⑤ 循環孔をオイルタンク、または圧縮空気回路には絶対に接続しないでください。コンプレッサー故障の原因となります。

#### (2) 本装置試運転確認

- ① コンプレッサーを起動させてしばらく運転させた後、検流器にライトを照らし、オイルが流れていれば、オイルが正常に循環しています。
- ② 運転中、オイルの漏れがないか確認してください。
- ③ 定期的に検流器にライトを照らし、オイルが流れているかを確認してください。オイルが流れていない場合は、Y型ストレーナ・入口ストレーナ・オリフィス等の詰まりが考えられますので、点検・清掃をしてください。

#### 本装置には安全対策が2件取り入れられています。(特許取得済)

※図2参照

- オリフィスでオイルを微量循環させます。オイルタンクで発生したドレンはフロート室へ入ります。

#### 安全対策①

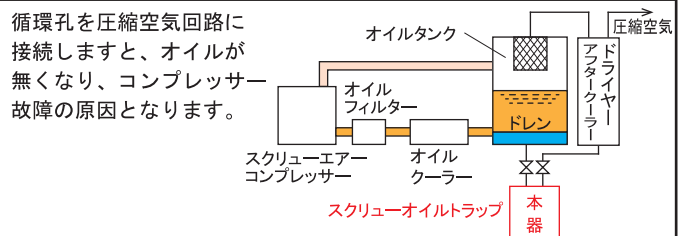
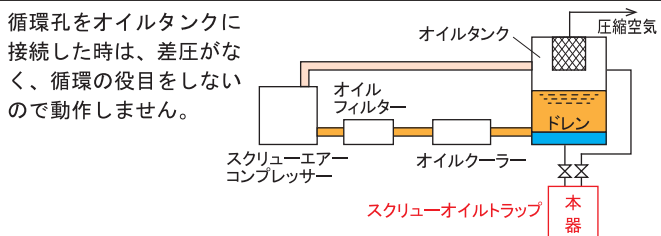
フロートが上昇すると、電磁弁(A)(B)が1.5秒間電磁弁が開になり、ドレンを器外に排出します。フロートが上昇したままの時は、タイマーが1.5秒間働き、セット時間後電磁弁を閉にする安全対策がとられています。

- フロートが下降すると、電磁弁が閉じます。

#### 安全対策②

電磁弁は二段構えになっており、オイル出っ放し防止の安全対策がとられています。

#### 下図の配管は厳禁



感動をもたらす省エネ、環境関連機器をデザインする

神奈川県優良工場認定・横浜知財みらい企業認定

**FK 株式会社 フクハラ**

検索サイトからは

本社・工場 〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西 1-15-5  
TEL 045(363)7373 FAX 045(363)6275  
URL <http://www.fukuhara-net.co.jp>  
E-mail: [eigyoo@fukuhara-net.co.jp](mailto:eigyoo@fukuhara-net.co.jp)



ご用命は

改良のため型式および仕様を予告なしに変更することがあります。